

知つ得情報！

2026年
1月号

発行元
株式会社ピースワン
〒545-0051
大阪市阿倍野区旭町1-2-7
あべのメディックス11階
TEL : 06-6631-0303
FAX: 06-6631-0703



◆現場の迷走を招く！ 情報不足のリスク◆

さて、あなたは会社で「この情報、なぜ共有されていないの？」と感じたことはありませんか？

- ◆————◆
- ◆ 現場の迷走を招く！ 情報不足のリスク
- ◆————◆

リーダーが、受け取った情報をチームに伝え忘れてしまう。「これはまだチームに伝えなくてもいいか」と、自己判断してしまう。こうした場面、思いあたる経営者の方も多いのではないでしょうか。「情報共有のつまずき」は、一見小さなミスに思えるかもしれません。

ですが、これは多くの企業が抱える課題のひとつです。情報が正しく共有されないと、現場は「想像」で動き始めます。本来であれば、経営者やリーダーの意図を汲み取り、それに沿って動くべきところを現場は、自分たちの「解釈」で判断を下し、行動してしまうのです。

そしてその解釈が、少しずつズレを生み出し最終的には【経営者が描いた理想とは違う場所】に着地してしまう。つまり、情報共有の不足は組織の成長を揺るがす深刻なリスクなのです。

情報不足により誤解や遠回りが重なれば、現場のスピードも精度も落ちていきます。その結果、修正にかかる手間が増え、経営者の負担は大きくなるばかりです。

では、必要な情報を的確に、そしてスムーズに組織全体に届けるには、一体どうすればよいのでしょうか？

ちなみにある企業では、組織内の情報共有において以下のようなことを心がけているそうです。

- ミーティングの最後に「他のメンバーに伝えること」を確認
- 「言ってはいけない情報」も明示する 未確定の数字や、関係者の不安をあおる情報は慎重に扱う
- 経営者自身がラフな共有を意識的に行なうスピードを意識して、アイデア段階でも情報を渡す姿勢を見せる
- 社内チャットで「速報チャンネル」を設定 伝える場所と時間を設けなくとも、情報を流せる場所を用意してスピードを保つなど。

情報共有において大切なのは「スピード重視の共有」と「流す情報・流さない情報の線引き」です。

情報がうまく流れ始めると、組織は確実に動き出します。判断の精度が上がり、連携がスムーズになり何よりチームが前を向きやすくなります。

正しく、スピーディーに情報が伝わる組織。そんな環境を、ぜひつくっていきましょう。

□ ■ □————
編集後記————□ ■ □

今回は「情報不足のリスク」をテーマにお伝えしました。

必要な情報が現場に届かないと、思わぬリスクを生み出しまいますよね。

当社でも「この情報、現場に届いているだろうか？」と、改めて見直してみようと思いました。

最後までお読みいただきましてありがとうございます。
ご不明な点ございましたら、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。

今年もよろしくお願ひいたします。

